

第3回 岳北地域の高校の将来像を考える協議会 (会議録概要)

日時：令和元年7月5日(金) 14:00～

場所：飯山市役所 4階 全員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

足立会長)

委員の皆さん大変ご苦勞様でございます。第2回目の協議会は5月に開催し、両高校を視察させていただきまして、その後皆さんから率直なご意見をいただきましたが、委員の皆様の意見としては、両校にそれぞれの特長があり、この地域の子どもたちにとって、また地域の将来の発展という観点からも両校の存在が必要であり、存続をすべきであるという結論に至ったと思います。

今回第3回の会議でございますが、それを踏まえまして、協議事項にもございますが、存続といったときにどういった形態が考えられるのかをまず整理をしていかなければと思います。また、県の高校改革の方針もあるわけでありまして、そういった話も聞きながら、うまく検討して整理をしていきたいと思います。

それから協議事項(2)についてですが、高校の形態だけでなく、どういう内容の教育が重要なのか、どういうカリキュラムが必要なのか等についてご意見をだしていただければと思います。非常に重要な課題でありますので、この場で結論をだすというのではなく、今回は色々意見をだしていただければと思います。いずれにしても、今後全体の取りまとめが必要となりますので、全体のスケジュール等につきまして今回提案させていただいて、皆さんで協議できればと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 協 議

(1) 長野県の高校改革方針と岳北地域高等学校の存続形態について

【資料】「高校改革～夢に挑戦する学び～」について

高校教育課高校改革推進係 駒瀬係長より説明

【資料 1～6】について

高校教育課高校改革推進係 上原主任指導主事より説明

【資料】「協議会の進め方」について

飯山市教育員会事務局 教育部 常田部長より説明

足立会長)

スケジュールについて説明がありましたが、全体的には11月には県への提案書を提出するために、今回で第3回目ですので、色々意見を出していただいて、第4回では意見の取りまとめをし、第5回については、それを提案書としていくためのたたき台を作成していくという形で進めていきたいということです。11月までと期間も限られておりますが、全体のスケジュールについて何かご意見ございますか。

林飯山高校校長)

7月に在校生との意見交換とありますが、この協議会の中でということでしょうか。この後夏休みになるので、どういう生徒を選び、どういう意見を言ってもらうか等、校内でも考えていかないといけないと思っておりますので、在校生との意見交換というのは7月は厳しいかなと思います。

足立会長)

校長先生からの意見を踏まえて、在校生との意見交換については少し検討したいと思います。他にご意見がなければ大まかなスケジュールとしましては、この形で進めさせていただこうと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に存続の形態についてですが、教育のカリキュラムも相互に関係しますし、今日ここでどうするかを決めることは難しいと思いますので、皆さんのそれぞれのご意見をお聞かせいただければと思います。

日墓副会長)

両校とも存続させるには、キャンパス化するのか独立して残せるのか等あると思いますが、今日は県の高校教育課の方もいらっしゃいますので、キャンパス化をしたらどうという課題があるのか、どういう利点があるのかを教えていただいて、どうするか考えていくのがいいと思います。

また、単独でもキャンパス化でも、生徒数が減少してきた時に、農林高校の施設を社会人の学びの場に開放する等の方策を県は考えているのか等もお聞きしたいと思います。

あわせて、資料では地域キャンパス化しているのは普通高校だが、職業高校でも可能なのかもお聞きしたい。

足立会長)

副会長からも意見がありましたが、キャンパス化した場合と単独校で残す場合、それぞれどのような課題や形態等が想定できるのかについて県の方から説明をお願いします。

駒瀬高校改革推進係長)

資料にある中条校・犀峽校は、もともと中条高校・犀峽高校だったものが第1期再編計画での基準を下回ったので、それぞれ長野西高校・篠ノ井高校の地域キャンパス校、つまり分校の位置づけとなったものです。中条校・犀峽校は、それぞれ元々の校歌・校章を使っています。校長は長野西高校・篠ノ井高校におり、地域キャンパス校に副校長がおり、部活動も本校と分校別々で、少人数でやっている状況です。

一方、キャンパス化と言った場合には、佐久平総合技術高校の元臼田高校を使った臼田キャンパス、元北佐久農業高校を使った浅間キャンパスがあります。これは、ふたつの高校を佐久平総合技術高校に統合した、ひとつの高校であり、校章・校歌は同じ、教員は両キャンパスを行き来して授業を持ち、部活動も合同です。校舎が二か所にあるだけで、ひとつの高校ということです。単独校でという場合は、今の飯山高校と下高井農林高校のように、それぞれがまったく独立した高校として存続するということです。

横澤下高井農林高校校長)

確認ですが、地域キャンパスということの説明として、今ご説明いただいた佐久平総合技術高校の臼田キャンパスと、浅間キャンパスはふたつの高校をひとつに統合したということだと思いますが、これが地域キャンパスというものに該当するのでしょうか。該当するのであれば地域キャンパス化というのは2校統合という解釈になるかと思いますが、中条校や犀峽校の説明と混同しやすいところだと思います。

上原高校教育課指導主事)

佐久平総合技術高校のキャンパスという表現は、本来ですと北校舎・南校舎という表現でした。それがキャンパスという名称になっていますが、あくまで一つの学校なので、飯山高校と飯山北高校が統合して飯山高校になった際に校舎がふたつに分かれていたのと同じイメージです。

地域キャンパスというのは、分校になります。再編に関する基準等において、飯山高校と下高井農林高校は、中山間地存立校の位置づけにあり、下高井農林高校は現在2学科(クラス)の募集ですが、これがもし1学科になってしまうと地域キャンパスということになってくるのかなと思

います。そうなった場合、専門分野の農業関係の教員の数が１クラスの学校の規模になり、今の半数で農場等の運営に携わらなければいけないという課題はあると思います。
また、中山間地存立校の再編として地域キャンパス化を選択したとしても、地域キャンパス校がより小規模になった場合には地域キャンパス化の再編基準もあります。佐久平総合技術高校の場合は、統合して新たな１校になっているので、その全体で基準を考えることになります。

長瀬飯山市教育長)

佐久平のキャンパス化のイメージは、吸収合併ではなく対等で一緒になるという理解でよろしいでしょうか。

駒瀬高校改革推進係長)

新しい学校を作るという解釈になります。

日墓副会長)

地域キャンパス校は分校、だがその分校がさらに小規模化すれば、さらに再編基準に抵触することもありうるということですか。

足立会長)

新設統合してキャンパス化、地域キャンパス化、単独存続など、もう少し整理する必要がありますね。

林飯山高校校長)

県がイメージしているのは、中条校や犀峽校のような地域キャンパス化ということですよ。

駒瀬高校改革推進係長)

それをこの会の中で話し合っていたということになります。最後にいただいた意見を、我々は最大限尊重しながら再編資料を作成していくということになります。

足立会長)

この会の位置づけとしては、地域の意見をだして県にあげることが目的ですが、最終的な判断は県立高校になるので、県の方で決定するということになると思います。ですが、要望はしっかり上げていく必要がある。もう少し分かりやすく、図式化するなどして提示していただかないと分かりません。高校の運営上の県としての決まりがあると思いますので、それも踏まえて再度説明をしていただいたほうがいいかなと思います。

日墓副会長)

例えば、地域キャンパスといえば分校になるわけなので、飯山高校が本校だとすると、下高井農林高校が地域キャンパス校つまり分校という位置づけになるということですが、分校としての再編の可能性も結局また出てしまうということ、逆に新しく一つの学校として、飯山キャンパス・下高井キャンパスというようにすれば、あくまで一つの高校なので、再編の対象になる可能性は低くなるという考えでよろしいですか。

駒瀬高校改革推進係長)

単独校として残ると、どうしても人数が減れば再編対象にはひっかかってくるので、そういう解釈でよろしいかと思います。

足立会長)

まずは、委員の皆さんに、キャンパス化等ということについて理解してもらわないと話が進みませんし、地域の皆さんに説明するにも困りますので、分かりやすい資料を次回ご用意していただければと思います。

駒瀬高校改革推進係長)
次回用意してまいります。

足立会長)
形態についてはとりあえず、再編の仕方についてきちんと理解してからということによろしいでしょうか。それでは次の協議事項に移りたいと思います。

(2) 今後の両校に望まれる学びの姿について（意見交換）

足立会長)
続きまして、今後の両校に望まれる学びの姿について、意見がありましたらお願いします。

日墓副会長)
第一次の再編の際には、各地域に農業高校として残すことを勧奨してきましたが、例えば総合学科ということになれば、建設業や土木、観光業等色々な職業に生かせる勉強ができますよね。地域が必要としている人材を育てるためには、農業だけに縛られずに、他の学科のことも考えると幅が広がるのではないかと私は思っています。いかがでしょうか。

駒瀬高校改革推進係長)
そういったご意見があれば、地域の要望として最後に提言いただければ、我々はそれについていいとも悪いとも言えませんので。この会の結論としてまとめていただければと思います。

足立会長)
先ほど県教委から説明いただいた高校改革の方向性について、現代求められている人材育成という観点が必要なのはわかるのですが、現実との整合性が概念的過ぎていていると思います。勉強した生徒がこういうことをやってみたいと思った時に、その思いに対しての着地点を作るというのが大事だと思います。高校教育でのキャリアデザインという視点は必要ではないでしょうか。

太田さん(農業者))
今の中学生は、高校を決めるときに何を基準に決めるかですが、将来こうなりたいからこの高校へ行くとか明確にしている子は、非常に少ないと思います。自分は学力に自信があるから飯山高校の探究科へ行く、学力に少し自信がないからスポーツ科にする、飯山高校は無理だから下高井農林高校へいくという決め方だと思うんです。在学生の意見をきくと先ほどありましたが、2、3年前のOBの意見を聞くとか、今の中学生の意見を聞いた方がいいのではないかと思います。子どもが直面する問題なので、その辺の意見を聞いた方がいいのではないかと思います。

小松さん(農業者))
太田さんとほぼ同意見ですが、全国から募集をかけるとなった際に、高校に入学した時点で農業をやりたいという子も中にはいると思うので、地域を生かして高等専門学校という形もいいのではないかと思います。

加藤長野県農業大学校副校長兼農学部長)
私どもの大学にも、この地域から学生さんに来ていただいているので、ありがたいと思っています。我々の大学は、農業者を育てることが大きなコンセプトになっているので、入ってくる学生も、農業をやるぞという気持ちでこられるかたが多いので、やりやすい部分ではありますが、高校生だとそこが難しいのかなと思います。先ほど話にもありましたが、農業に特定しないというのも、この地域の発展を考えると色々可能性があるのではないかなと思いました。

中山北信州森林組合代表理事組合長)

例えば、農業高校で林業に関する専門知識が学べるかとなると、なかなか難しいと思います。森林組合に入るにも、学校を出てすぐというよりは、民間で技術や知識を学んでもらってからの方が、近道になると思っています。少人数で専門知識を学ぶよりは、一定人数で一般的なことを学べるような高校ができれば私は希望しています。

高橋飯水中学校長会会長)

存続する方針というのは、現場としてはありがたいなと思います。先ほど意見がありました中学校の成績で振り分けられてしまうという現状もないとは言えませんが、生徒の中には、農業に興味があるから下高井農林高校に進学するという子もいます。そういう選択肢を保障する環境は残したい。農業高校であれば下高井農林高校へ、学力をつけたいなら飯山高校へと自信を持って言えるような、学校づくりができればいいのではと思います。

若林中野・下高井中学校長会代表)

私ども野沢温泉中学校の卒業生は、6割から8割の子どもが地元の2高校へ進学しています。両校に大変お世話になっていて、存続していくという方針になったとき、良かったなと思いました。今の子どもたちは本当に多様で色んなお子さんがいます。子どもたちが進める色々な場所を作るということも重要なのではないかと思いますし、受け皿がたくさんあればあるほど、子どもたちにとってもありがたいのではないかと感じています。現在、中学校のキャリア教育として職場体験等やっていますが、その仕事をやるには何をすればいいのか、例えばこういう高校へ行って、大学へ行って、こんなことを勉強すればなれますよ、と伝えて一緒に考えることが大事だなと思います。なりたい職業を持ってない子の方が多いので、高校から先の学びの中で考えていくためにも、いろいろな受け皿があるのはありがたいと思います。

足立会長)

他にご意見はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

今回の会議では県教委の方から色々ご説明をいただいたわけですが、形態については整理をしていただいて、再度ご提示をしていただければと思います。内容については、それぞれまたご意見を考えていただきまして、それぞれの委員さんで考えをまとめていただければと思います。次回についてはある程度意見をまとめるという形でお願いいたします。

他にご意見がなければこれで本日の会を閉じさせていただこうと思います。

4 その他

- ・次回開催日程について _____ 月 _____ 日 () _____ 時～
7月後半～8月上旬、日程調整し通知予定とし終了。

5 閉 会